

平成28年度 理科専門部会現地巡検研修会

報告者：理科専門委員(沼津中央高等学校) 秋庭直輝

本年度の研修テーマは「好奇心を刺激する理科」であった。近年様々な実験器具が販売されている中で、8月6日に静岡県男女共同参画センター「あざれあ」には、全国津々浦々から教材・実験器具の発表や講演会があった。それを一目見ようと、全国から理科教員が集まり、見学や販売で会場は大いに賑わっていた。

午前は「科学お楽しみ広場」2つのフロアを利用して様々な実験器具などの発表であった。全国の教員が作成したアイデア実験器具はとても興味深く、実際に本校でも取り入れたいと思うものが沢山あった。



午後は講演会であった。開会前行事として、ふじのくに地球環境史ミュージアム准教授である山田和芳氏の「静岡の環境」という議題であった。記念講演として、東邦大学名誉教授である長谷川博氏の「50羽から5000羽へ アホウドリの再生を目指して」という議題であった。アホウドリはかつて1羽で1050円になることから、一攫千金のために数百万羽も乱獲されていたこと、それによって1949年には絶滅したと思われていたことを講話にて学んだ。そして長谷川氏の決死の保護研究の末、繁殖に成功した。さらに2050年には数万羽にまで増える可能性がある。保護研究の背景には環境汚染や海洋汚染によるものや混獲など様々な困難があり、それを乗り越えて増加させたことに非常に熱意を感じた。また、名前をオキノタユウ（沖に住む神聖な鳥という意味）に改称したいと提案されている。アホウドリという名前には少し中傷的な意味合いがあるので、このような素晴らしい意味合いがある名称に改称されればと切に考える。

